

北小の門(あいさつ門)のペンキ塗り

北小の入り口の門にキリンが描かれているのを御存知でしょう。また、裏面(校舎側から見た面)には黄色い帽子を被った男の子と女の子が描かれています。これは北小の門(通称あいさつ門)といわれています。この北小の門はそれまではコンクリート製の地味な色合いでした。平成11年11月に当時の敷島北小の職員、児童、それに保護者の協力を得て、図案を考え、色づけし、今のような素敵な門に変身したそうです。

作成から10年以上経過し、色あせてきました。「塗り直したらどうか」という声も寄せられていました。私も今年度、吉沢地区民会議(6月25日)の席でそのような声を聞きました。ただ、次のような点から学校としても踏み切れないでいました。

○公費でお願いする場合

- ・優先順位としては、より緊急性を要する別の工事修繕(例えば大廊下の雨漏り等)がある。
- ・予算折衝において、必要性・緊急性という点から説得力に乏しい。

○公費を使わず、職員と子どもたちで作業する場合

- ・高所での作業になり、危険性が高い。
- ・しっかりした足場を組む必要があり素人では難しい。

そのようなこともあり、私としては、北小の門の塗り替えは今年でなくとも、と考えていました。そのような折、「おやじの会」の皆様が、北小の門の塗り替えを、提案下さいました。話がとんとん拍子に進み、次のような計画であいさつ門が生まれ変わることになりました。

①2月20日(土)に、高圧洗浄機を使いこれまでの汚れを落とす。

②3月13日(土)に、ペンキ塗りをする。

この時、次のような確認がされたそうです。

- ・図柄(デザイン)はそのままにして上塗りだけをする。
- ・当時の校長先生(河西先生)や担任の先生、児童会役員にも連絡し、都合がつけば来校していただく。
- ・本校児童の参加は、新旧児童会役員で都合のつく子どもたちで。

これは、高所での作業になり、子どもでは危険なためです。

当日は、早朝から「おやじの会」の皆様が、足場を組み、高所作業車を用意し、1日かかりで、見違えるようなきれいな色に塗り替えて下さいました。ありがとうございました。(学校のホームページでも紹介していますのでご覧ください)

足場が組み立てられました



当日の作業風景



学校だよりで伝えたいこと

今年度も残りわずかとなりました。この1年間「学校だより」ご愛読ありがとうございました。こんなねらいでお便りを発行してきた、ということを保護者の皆さまに知っていただくことも必要な、と考え最後になってしまいましたがお話してみたいと思います。

○学校の説明責任と情報発信

今、学校ではどんなことをしているの、子ども達はどんな活動をしているの、わが子や他の子ども達は学校生活を楽しく過ごしているの。そのような保護者の方々が関心があることを少しでもお伝えできればと考えました。また、学校でこんなことがあったけど、どういうことかな、そんな疑問に答えたい、そんなことも考えました。

次に作成する上で気をつけてきたことをお伝えします。

(1) 分かりやすいこと

まず一番に心がけたことは分かりやすいことです。保護者の皆さんに忙しい時間を割き読んでいただくのですから、読みやすさを一番に考えました。映像(写真)等を使い、「百聞よりも一見の良さ」を生かした作成を心がけました。

(2) タイムリーであること

学校からの情報発信ですから、時機を逸しないことが大切と考えました。夏の出来事を冬に紹介しても保護者の皆さんにとって何となくびんと来ないものです。時期的にタイムリーな内容をお伝えできるよう心がけました。

(3) 短く簡潔に

忙しい保護者の皆さんのことを考え、短く簡潔に伝えることを心がけました。特に裏面の「子育てのエピソードや教育的逸話」は、A4サイズ1枚以内、5分以内で読め、心に残り、具体的で役立つ内容、という欲張ったことを考えました。

(4) 自分の思い、考えを伝える

校長の仕事は、敷島北小をどうしたら更に素晴らしい学校に出来るか、という学校経営をはじめ、教職員の指導、教育委員会との対応、教職員人事等色々あります。どれをとっても相当骨の折れる仕事です。その中で学校だよりの発行はどうしてもしなくてはならない仕事ではありません。(出来れば発行した方が望ましい、という程度でしょうか)私は、学校だよりの発行を、学校経営を充実するための手段と考えました。

私は、たまたま、こうして平成21年度、敷島北小に赴任し皆さんに出会いました。だとしたら私は自分が持っているものを出来る限り皆さんに伝えたい、と思いました。自分の思いや考えを、北小の子ども達の様子、素晴らしさを、職員の頑張りを、保護者の皆さんに伝え続けたい、そのような思いで学校便りを発行してきました。

1年間という限られた期間での学校経営でしたので、保護者の皆様の期待に応えることの出来なかった点多々あったかと思えます。そのような点がありましたら、私の力不足とお詫び申し上げます。

ただ、私は、私自身が敷島北小区(天狗沢)に住み、教諭としても以前に北小に勤務し、わが子も皆、敷島北小を卒業しました。そのようなこともあり、敷島北小に対する思い入れ、愛着は人一倍強いものがあります。

幸い、学校周辺の道路整備も進み、北小の児童数の減少にも歯止めがかかり、増加に転じそうな勢いを見せています。北小区に住む一区民として、児童数が増えることは嬉しい限りです。4月からは一市民として、敷島北小の益々の発展を願っていきたいと思います。